

草津市自立支援協議会 部会・プロジェクト活動報告

部会・PJ名	草津市障害者(児)自立支援協議会 相談支援部会	報告者	河地千衣
部会長	河地氏(にぎやか会・相談支援事業所 歩歩)		
副部会長	白井氏(こなん SSN・相談支援事業所 大地)		
参加機関 ・ 委員	(㊟)精神障害者地域生活支援センター風(周行会)//大地(こなん SNN)//わかたけ(若竹会)//ディフェンス(ディフェンス)//アザレア(アザレア)//歩歩(にぎやか会)//はたらこっと//草津市障害者福祉センター・ほっとココ(草津市心身障害者連絡協議会) (㊿)クロスロード(REDBLUE)//おひさまハウス(SUNNYSIDE)//スマイル空(企画組合労協センター事業団)//発達支援センター 法人本部企画事業部 ケアシステム推進課(グロー)//草津市障害福祉課//基幹相談支援コーディネーター 15 機関		
事務局	草津市障害者福祉センター		
活 動 報 告			
今年度の ねらい	・草津市における課題を抽出し、提言していく。 ・相談支援事業所間の交流や研修を実施し、必要な知識やスキル等の向上を目指す。		
回数	開催日時	概 要	
令和3年10月 ○「よりよい相談支援の実現に向けて」を議題に各相談支援専門員にアンケートを実施。 ・わが町草津市の強みと弱み、地域課題について 強み (1) 社会資源が多い(他圏域に比較して) ・びわこ学園や小児保健医療センター、滋賀医大等の医療機関が近くにあり、利用しやすい。 ・市役所と保健所が近くにある。 ・医療・福祉の社会資源が比較的多い。 ・他の圏域より、ヘルパー事業所が多い。 (2) 相談支援の体制 ・相談部会があり、日ごろ困っていることを相談でき、一緒に考える機会がある。 ・基幹コーディネーターが、困難ケースについて必要時に介入してくれるため安心できる。 ・行政(障害福祉課)がフォローアップ体制を取ってくれているので、必要時に連携しやすい。 ・行政(障害福祉課)がケースワークにも積極的に参加してくれる。 ・行政(障害福祉課)と連携が取れており、ケースに対して、同じ方向性を持って取り組むことができるので安心。 (3) 町の特性 ・街が活性化している。若者が多い。 ・自然災害は少ない。 ・市の面積がコンパクトなので、把握しやすい。 弱み (1) 利用が困難、またはニーズに即していないと思われる障害福祉サービス ①日中一時支援 ・単身者の日中一時支援が認められていない。サービスに繋がりにくい障害者の方の居場所として必要			

な社会資源だと考える。

② 相談支援体制

- ・一般相談できる窓口が少なく、現行の窓口だけでは当事者や家族の相談事に十分に対応できる体制が取れていない。
- ・一般相談を受けてくれる事業所がない。
- ・相談員の人員体制が整っている相談支援事業所が少ない。

③ 障害児のサービス

- ・医療ケアのある重症心身障害児への入浴介助の資源、放課後等デイサービス、障害児デイサービス、ヘルパーが不足している。

④ 精神障害者支援

- ・精神障害者の方への支援は、医療連携が強く、さらに病状が不安定な状態が繰り返し現れる。よって支援についての相談や、チームへの後方支援等、健康増進課のサポートが欲しい。

⑤ 全体

- ・ニーズに対してサービスが追い付いていない事への利用者からの不平不満が相当ある。
- ・緊急時対応の受け入れ先はあるが、断られる時があり不安。長期に利用できない。
- ・重度心身障害者の入浴は、介助の人や設備が必要で、家族の負担も重く入浴回数は相対的に少ない。利用できるサービスが限られている。

地域課題

(1) サービスをつなぎ調整する相談支援事業所(相談員)の不足

- ・サービスを提供する事業所は一定数あるが、それらを繋ぎ調整する相談支援事業所が不足している。

(2) 社会資源の不足

- ・重度の障害児についての通所による発達支援や生活支援の資源が不足している。
- ・入所施設の資源不足。
- ・居宅介護事業所が不足している。
- ・重度訪問介護の受け手がない。
- ・短期入所施設がない。
- ・障害福祉サービスと介護保険サービスの狭間に居る人の居場所がない。
- ・精神障害者のショートステイ先がない。
- ・グループホームが次々と参入しているものの、重度の方向けが多く、軽度の利用者では対象外になる。また、精神障害者に特化したグループホームがない。

(3) 地域生活支援拠点等の整備

- ・緊急時対応への不安、(受けてもらえるか確定していない、長期利用は難しい)

○今後の相談部会について

- ・相談支援業務から得られるニーズや社会資源の整理等の実施
- ・上記の地域課題の中から、現在必要な課題を整理し、地域の課題に対する共通認識を持ち、目的の共有化を図る。
- ・事例検討の積み重ねから、地域で共通する課題を捉え、地域作りのために活用する。
- ・障害者(家族)の実態とニーズに関するアンケート調査を通じ、課題抽出と検討の実施検討。(案)